

自己評価報告書

平成23年 4月24日現在

機関番号：24506

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2011

課題番号：20510218

研究課題名（和文）照葉型里山林の生物多様性保全に係わる基礎的研究

研究課題名（英文）Conservation study of species richness in the semi-natural lucidophyllous forests.

研究代表者

服部 保 (HATTORI TAMOTSU)

兵庫県立大学・自然・環境科学研究所・教授

研究者番号：00244690

研究分野：複合新領域

科研費の分科・細目：資源保全学・資源保全学

キーワード：照葉樹林、里山、生物多様性、照葉樹林フロラ、照葉二次林

1. 研究計画の概要

照葉樹林は自然性によって照葉原生林、照葉自然林、照葉半自然林（照葉型里山林）、照葉人工林に区分される。照葉型の樹林の中でもっとも広い面積を占める照葉型里山林の保全はたいへん重要であるが、本樹林の調査は十分進められていない。九州、沖縄等に広く分布する照葉型里山林の種多様性、種組成について保全生態学的な視点から調査を行う。

2. 研究の進捗状況

2008年より2010年にかけて宮崎県北部地域、宮崎県南部地域、鹿児島県奄美大島、鹿児島県種子島、沖縄県石垣島、沖縄県与那国島等の照葉型里山林の調査を行い、各地域における照葉型里山林の特徴を照葉原生林と比較して明らかにしてきた。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

主要な照葉型里山林の調査はほぼ終了し、各地域別の照葉型里山林の種多様性、種組成の現状は明らかとなり、現状把握の部分については目的を達成した。

4. 今後の研究の推進方策

調査が不十分な地点の追加調査を行った後、各地域の照葉型里山林の比較・検討を行い、国内の照葉型里山林の現状と照葉型里山林の生物多様性保全方法をまとめる。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

①服部 保・南山典子・岩切康二・石田弘明・橋本佳延・栃本大介、タブ型照葉樹林の種組成および種多様性、人と自然、21、121-131、2010、査読有

②服部 保・岩切康二・南山典子・黒木秀一・黒田有寿茂、宮崎神宮社叢の種多様性の特性、保全生態学研究、15、47-59、2010、査読有

③服部 保・栃本大介・南山典子・橋本佳延・澤田佳宏・石田弘明、九州南部の照葉樹林における維管束着生植物の種多様性および種組成、植生学会誌、26、49-61、2009、査読有

④服部 保・南山典子・石田弘明・橋本佳延、鹿児島県屋久島における照葉樹林の種組成および種多様性、人と自然、20、1-14、2009、査読有

⑤服部 保・南山典子・松村俊和、北限と上限の照葉樹林の種組成と種多様性の比較、植生学会誌、25、25-35、2008、査読有

〔学会発表〕（計1件）

①服部 保・他、照葉人工林の自然性はどの程度まで回復するのか、植生学会第13回大会、2008.10.12、東京農工大学

〔図書〕（計3件）

①服部 保、朝倉書店、環境と植生 30 講、図説生物学 30 講、環境編、2011、159

②服部 保・他、兵庫県立人と自然の博物館、多様性植生調査法—生物多様性評価と数量的な解析を進めるための植生調査法—、2010、28

③服部 保（分担執筆）、築地書館、温暖化と生物多様性、2008、173-181